



高原の自然館ニュースレター

# 苅尾電波塔

第91号

2011.8.1

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。  
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」の名前をつけています。

## もくじ

### お知らせ

- 一西中国山地自然史研究会設立 15 周年記念切手が発売
- 一観察会の活動報告について

### 活動報告

- 一霧ヶ谷湿原 夏のいきもの観察会
- 一ブツポウソウの観察会
- 一こども観察会

### 観察会案内

- 一可愛川の水生生物観察会
- 一霧ヶ谷湿原 秋のいきもの観察会
- 一霧ヶ谷湿原の植生調査（秋）

## お知らせ

### ● 西中国山地自然史研究会設立 15 周年記念切手が発売

西中国山地自然史研究会の設立 15 周年を記念して「芸北の自然」というタイトルのフレーム切手シートが販売されます。

芸北ならではの動植物が 10 種類、50 円切手となりました。贈り物にも最適です。

1 シート 50 円切手 10 枚入りで 900 円です。

切手の販売に関してのお問い合わせは八幡郵便局までお願いします。

八幡郵便局  
〒731-2551  
広島県山県郡北広島町東八幡原 1001-3  
電話番号 :0826-37-0300

### ● 観察会の活動報告について

「千町原の保全活動」および「カワシンジュガイの観察会」の活動報告は、都合により次号の苅尾電波塔にて掲載します。

## 観 察 会 報 告

### ● 霧ヶ谷湿原 夏のいきもの観察会

開催日時:2011年7月10日(土)9:30

講師:岩見潤治・大竹邦暁・和田秀次

暑い日となることを予想させる青空のもと、暑い日となることを予想させる青空のもと、21名が高原の自然館に集合しました。今回の講師は、岩見先生、大竹先生、和田先生です。自然館内で行程や諸注意を聞いたあと、湿原に向かって出発しました。歩き始めて間もなく、岩見先生が何かを捕まえました、アカウシアブです。捕まえたアブを見ながら「ハチは羽が4枚あるが、アブは2枚。後ろの羽は、退化してバランスを取るための器官になっている」とアブとハチの違いを教えてくださいました。湿原に入る少し手前には、オカトラノオが小さな白い花をたくさん咲かせていました。「尻尾状になっているように見えるが、空を向いている部分にだけ花を付けている」と、花の付いていない地面を向いている部分も観察しました。他にも、ザトウムシの仲間やトウキョウコマチグモ、ジキジキ...と鳴いているナキイナゴやコオニヤンマなどが姿を見せてくれました。

水口谷湿原に入ると、涼やかな空気が私達を包んでくれました。たくさんの大きなハンノキが日差しを遮ってくれているからです。木道の傍では、ニホンカワトンボが、木道の傍にある植物に止まって身体を休めていました。岩見先生が「カワトンボのオスは、羽に色があるものと透明なものがあり、色の有無がそのまま縄張りの有無になっている」と解説されました。植物に目を向けると、赤い実を付けたクマイチゴや、黄色い花がまぶしいハンカイソウなどが見られました。広い木道に出て一息ついていると「真上の木を見てみよう」と白川学芸員が声をかけました。見上げてみると、枝が折れて一か所に引き寄せられた部分がありました。クマ棚です。見上げていた木はヤマザクラで、クマ棚は、実を付けていたサクランボを食べた時に作られたものでした。霧ヶ谷湿原と水口谷湿原をつなぐ道でも色々な生き物を見ることが出来ました。きれいに葉っぱを巻いて、幼虫が育つ家を作るオトシブミの仲間、ノリウツギの花やクロツグミのさえずりを聞くことも出来ました。

霧ヶ谷湿原に入って、最初に目に飛び込ん

できたのは、たくさんのクサレダマやサワヒヨドリの花が咲いている、花の絨毯のような光景でした。しばらく木道を進むと、川の水をせき止めている堤が見えてきました。和田先生が「霧ヶ谷湿原は、昔に行われた牧場開発で、水はけがよくなり、藪に変わってしまった。今はその川をせき止めて溢れさせ、導水路を伝って水が全体に広がるようにしている」と、水路の図を見せながら説明されました。木道を歩いていると、子ども達がトンボの抜け殻を見つけました。岩見先生に見せると、特徴的な大きなアゴの形からオニヤンマの抜け殻だということが分かりました。他にも、キセルアザミのつぼみやノハナショウブ、植物の上にはフキバツタの幼生やシオヤトンボ、水の中ではタカハヤやオタマジャクシなどが見られました。木道の終わりに差し掛かった時、参加者の一人が、近くの水たまりに向かって指差しています。よく目を凝らしてみると、胴の細いトンボがいました。ゲンバイトンボです。オスとメスが繋がっていて、水際に生える植物の茎の中に産卵している様子を確認できました。2つの湿原を時間をかけてじっくりと観察し、様々な生き物との触れ合いを通じて、自然がたくさんの生命を育んでいることを学んだ観察会になりました。[ありみつまさかず] ※観察会での採集は、広島県及び北広島町から許可を得て行っています。

※観察会での採集は、広島県及び北広島町から許可を得て行っています。



出発前にお話を。アブに気をつけよう。



オカトラノオの解説をする大竹先生。下側を見ると花がついていなかった。



自然館に戻ってまとめ。心に残ったことをみんなで言い合った。



オトシブミについて話す岩見先生。葉の巻き方や使う枚数によって種類を見分けられる。



両手にカワトンボ!

### 【みなさんの印象に残った物】

「クマシデ」「青りんごのにおいがするカメムシが印象にのこりました」「ゴマダラオトシブミが中にある葉をみたこと(2)」「夏空のもと、生き物が生き生きしている姿に感動しました。」  
「ノハナショウブ、ミズチドリ、クサレダマ、ヌマトラノオが沢山咲いていたこと」「動くサナギ」「オトシブミの仲間。きれいに家をつくっていて驚きました」「ヒロシマサナエをはじめてみれてうれしかった」「ゲンバイトンボの産卵が見られた」「講師の優しさ」「注意して見ると沢山虫がいたこと」

### 【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「べんきようになり、楽しかったです。知らないことが多いです」「八幡湿原も所によってちがいがわかってよかったですと思います」「いろいろな昆虫や植物が見れてよかったです(4)」「ファミリーな気分で楽しかったです。」「湿原にもどりつつあって良かったです。」「いろいろ見られたり教えて下さってよかったです(2)」「楽しい観察会でした(3)」

# 観 察 会 報 告

## ● ブッポウソウの観察会

開催日時:2011年7月16日(土)9:30

講師:上野吉雄・松田賢

絶滅危惧種にも指定されているブッポウソウの観察会に10名が参加しました。今回の講師は上野先生と松田先生です。まずは会場で、ブッポウソウについて講義を聴きました。昔は、木製の電柱に営巣していたが、コンクリート製の電柱が増えて、巣を作れなくなっていること、ヒナ鳥には主にコガネムシなどの甲虫を与えるため、餌やりの回数は夕暮れ時が一番多いことなど、観察するだけでは分からないことも講義していただきました。

講義を終えて、フィールドに出て観察を始めることにしました。あらかじめ、何カ所か巣箱を設置しておいた場所のうちの、2カ所を観察することになりました。1カ所目は、人の行き来が多く、時々大きな音や声が響き渡る場所でした。上野先生によると「このような場所の方が、カラスやテンなどの天敵が、人を警戒して近寄って来ないため、かえって安全に子育てができる」と説明されました。しばらく観察していると、巣箱の中から何か出ているのが見えました。ヒナ鳥です。餌を催促するために入り口に近づいたのでした。親は、それをみると素早く入口まで飛んで行き、餌を与えてまた飛び立って行きました。あっという間の出来事でしたが、親からヒナの餌やりを見れた参加者からは歓声があがっていました。

続いて2カ所目に移動します。そこは、車の通りも少ない、静かな田園風景が広がっていました。また、巣箱は樹木ではなく、コンクリート製の電柱にかかっていた。実は、1カ所目でもそうだったのですが、そのことを先生達に聞いてみると「樹木より、電柱にかけた方が、天敵の1つであるヘビが登りにくい、これも安全に子育てをしてもらうための工夫の1つ」と解説されました。観察していると、突然「ピクイー、ピクイー」と高い鳴き声が聞こえました。周りを見渡してみると、枯れた松の木にサシバがとまっていました。「農薬散布や乾田化などで、カエルやそれを食べるヘビが少なくなっているため、それらを食べるサシバも減少してきている」と絶滅危惧種にまで指定されて

いることを教えていただきました。

巣箱に視線を戻すと、親鳥が餌を与えるために巣箱へと飛んで行きました。ですが、1カ所目と違い中に入ったまま出てきません。「雛鳥がまだ小さいため、餌を与えた後、抱きかかえている」との説明がありました。

今回の観察会を通して、人にとっては小さな生活の変化でも、他の生き物へ、大きな影響を与えているということを感じました。[ありみつますかず]



上野先生に続いて松田先生が教壇に。ヒナ鳥の餌の内容や時間帯について説明があった。



外に出て観察場所へと向かう。近くからは、人の活動する音が聞こえてくる。



電柱の上から辺りを見回すブッポウソウ。日に反射したきれいな青色の姿にくちばしの橙色が映える。



木の上にとまっているサシバ。ゆっくりと旋回しながら山の向こうへと飛んでいった。



ヒナに餌を与える親鳥。一瞬の出来事だった。



巣箱の中へと入る親鳥。中でヒナを抱いていたため、再び飛び立つまでに時間がかかった。



場所を移して観察を再開。まずは親鳥を探す。

### 【みなさんの印象に残った物】

「ブッポウソウが、高い山ではなくて、里山に来ること」「ブッポウソウの子育ての様子が見れたこと(2)」「ブッポウソウの飛ぶ姿」「ブッポウソウに会えたこと(3)」

### 【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「人が横で活動していても、巣に出入りするのに驚いた」「もう少し近くで見ることができたら最高です」「幅広いお話で概略もよく分かり、実際に見れてよかったです」「きれいな青い色やサシバも見れてよかった」「ブッポウソウとサシバが生息出来る里山を体験できてよかった(2)」「人家に近い場所での巣箱に驚き！」

## 観 察 会 報 告

### ● こども観察会

開催日時:2011年7月24日(日)9:30

講師:岩見潤治・佐久間智子

夏休みすぐの土曜日に、元気いっぱいの小学生4人が高原の自然館に集合しました。今年のごども観察会は霧ヶ谷湿原にて川のいきもの調査です。再生された川に、どれくらいのいきものが戻っているかを確認することが目的です。

現地である霧ヶ谷湿原につくと、調査道具を持ち、今回の講師である岩見先生、佐久間先生と一緒に川へ向かいます。調査方法を聞いた後、二班に分かれて早速調査です。

堰のところからそろりそろりと水に入ります。一人が下流側に立ち川底にしっかりと固定するように網を持ち、もう一人が網のすぐ上流側の石をめくり石についているものを洗い流すようにして付着物をとります。その作業を何度か行い網をあげると石や砂などに混じって小さいいきものがいました。採れたいきものをじっくり観察するのはガマンして、そのままバケツに移して堰のところを2カ所採集しました。

次は堰の所より上流にあがります。上流にいくと、川の様子が違います。牧場形成によって三面張りになった川を自然再生事業により、川底のコンクリートを壊し自然に近い形にした堰のところと比べると、昔のままの川の姿があります。水の流れも速く気をつけないと足をとられます。ここでも2カ所から採集しました。

川からあがり、バケツに入った中身をバットに出します。バットの中から小石や落ち葉に混じっているいきものを見つけ出し、透明の小さな容器に入れていきます。1つの小さな容器には、同じ種類と思ういきものを入れ、採ったすべてのいきものを並べてみました。

最初の予想では5~10種類くらいのいきものがあるかな?と子ども達は言っていたのですが、20近くにもなりました。一種類ずつ岩見先生に解説いただきました。ゲンジボタルの幼虫、シマアメンボ、石や葉で上手に巣を作るトビケラの仲間、ヘビトンボの幼虫、ムカシトンボのヤゴなどがおり、それぞれの特長を交えて生活史も聞き、子ども達は真剣に聞き入っていました。

最後に、今日見つけて印象に残ったいきもの

の絵を白い紙コップに描きました。紙コップを積み重ねて、いきものの“食う食われるの関係”を再現し、川の生態系タワーを作りました。

何気なく見ている川の中にも、いきものつながりがあることが大変よく分かり、基盤となる環境が変われば生態系も崩れてしまう、ということをおみんなで学びました。また、再生した川には、思った以上にいきものが戻ってきていることもわかりました。

いきものを自分の手で探し、知識を得て、自然について考えるということが楽しくできたごども観察会となりました。[このやよい]



今日の調査方法について、レクチャーを受ける。



2人一組で開始。網を固定しておくのが意外に難しい。



大きなタカハヤが網にはいった!!



紙コップに絵を描き,川の生態系ピラミッドを使って解説する岩見先生.子ども達は突如現れたタワーに興味津々.



こちらの班も力を合わせて作業中.



最後のまとめをする岩見先生と,真剣に聞く子ども達.川のいきものに触れてたくさん学んだ.



バットからいきものを選び,同じ種類毎にわけていく.

#### 【みなさんの印象に残った物】

「大きなタカハヤ・ヘビトンボの幼虫」

#### 【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「思った以上に川の中にはいきものがたくさんいるんだなあと思った.岩見先生の丁寧な解説としかけで,川のいきものがぐっと身近になりました.」

## 観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

**基本セット**：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳  
**作業セット**：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

### ● 可愛川の水生物観察会

開催日時：2011年8月7日(日) 13:00  
集合場所：千代田公民館  
講師：内藤順一  
準備：基本セット、水中メガネ、箱眼メガネ、網  
定員数：30名  
参加費：300円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円、高校生以下は無料)

夏のお楽しみ、川に入っただけの観察会です。まずはオオサンショウウオ探しから始めます。実際に生息している場所にいき、調査のためにオオサンショウウオの計測を行います。じっくり観察できる機会です。どこに目があるの？指は何本？そんな疑問を確かめることが出来ます。川に入ることでできる服装、滑りにくく川を歩ける足元でお越し下さい。暑さ対策も必要です。



7月のとある日、霧ヶ谷湿原を歩きにいきました。「すっごくいいよ～」と聞いていたからです。松の木のところから、道路沿いを歩きました。少し歩くと4月に手入れをした場所です。そこへ着いてびっくり！ノハナショウブの濃い紫色、クサレダマのさわやかな黄色、ハンカイソウの鮮やかな黄色と花々が咲き、とってもきれいな風景でした。きれいなだけでなく、そこは自分たちが作業した愛着のある場所です。高原の風を感じながら、しばらく眺めたり、写真を撮ったりといい時間を過ごすことができました。う～ん、八幡はやっぱりよいとこさっせ。(この)

### ● 霧ヶ谷湿原 秋のいきもの観察会

開催日時：2011年9月17日(土) 9:30  
集合場所：高原の自然館  
講師：岩見潤治・和田秀次  
準備：基本セット  
定員数：30名  
参加費：300円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円、高校生以下は無料)

高原の風が心地よく感じる秋。湿原にはどんないきものがいるのでしょうか？どんな花が咲いているのでしょうか？霧ヶ谷湿原の木道をゆっくり歩きながら専門家の先生のお話を聞きましよう。霧ヶ谷湿原の成り立ちやこれからを聞くこともできますよ。

### ● 霧ヶ谷湿原の植生調査(秋)

開催日時：2011年9月25日(日) 9:30  
集合場所：高原の自然館  
講師：白川勝信  
準備：作業セット  
定員数：30名  
参加費：無料

毎年夏と秋の二回、霧ヶ谷湿原では調査場所を決め、1m×1mの中にどんな植物が生育しているかを調査しています。霧ヶ谷湿原が湿原へと回復していくプロセスを見るのに貴重なデータとなります。初心者の方でも気軽に参加下さい。

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先  
(ご意見・ご感想もお待ちしております)

高原の自然館(こうげんのしぜんかん)

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原119-1

tel. & fax : 0826-36-2008

<http://shizenkan.info/>

[staff@shizenkan.info](mailto:staff@shizenkan.info)